

## 二ツ塚処分場にホンドキツネが現れました —池で震えているキツネを職員が救助—

東京たま広域資源循環組合（管理者：立川市長清水庄平）が管理する二ツ塚廃棄物広域処分場（東京都日の出町）に、近年減少の著しいホンドキツネが撮影されましたので、お知らせします。

二ツ塚処分場は、埋立てを開始してから20年が経過しています。循環組合では、処分場設置に伴う生態系への影響をできる限り小さくするため、処分場内における貴重動植物の保全事業やスギ・ヒノキの人工林を広葉樹林に転換する事業（林相転換事業）などの取組を実施してきました。また、ごみの埋立てについても、埋め立てるごみが飛び散らない工夫（即日覆土など）を凝らし、周辺環境に配慮して作業を行ってきました。

この結果、現在も埋立てが続く二ツ塚処分場は、処分場周辺も含めて自然環境の保全が図られ、警戒心の強い野生生物でも安心して生活できる生物多様性の高い場所となっています。

この度、処分場内に設置した仮調整池で衰弱していたホンドキツネを職員が救助し、その姿を写真に収めました。救助したホンドキツネは2時間ほど埋立地内に座り込み体力を回復させた後、無事に森の中へ帰っていきました。

なお、ホンドキツネは平成22年にも処分場内で確認しており、継続して処分場内を利用しているものとうかがえます。

循環組合では、より多くの生き物が安心して生活できる処分場を目指し、今後も生態系への影響に配慮して事業を運営してまいります。



ボートで救助したときの様子



救助したキツネ

撮影日：平成30年9月20日

撮影者：東京たま広域資源循環組合職員





埋立地内で休憩する様子



元気に森へ帰っていくキツネ